

100%  
とちぎ愛

下野新聞創刊140周年

那須どうぶつ王国は、絶滅危惧種の鳥「ハシビロコウ」繁殖など野生動物の保護、保全に力を入れています。栃木県は昨年、絶滅の恐れがある本県野生動植物の現状をまとめた「レッドデータブックとちぎ2018」を13年ぶりに発行しました。創刊140周年の下野新聞社は「100%とちぎ愛」をスローガンに県を豊かにする活動を行う企業・団体を紹介しています。今回は「とちぎの環境を守るためにできること」をテーマに、那須どうぶつ王国の佐藤哲也社長と県立博物館の林光武自然課長に対談していただきました。進行は下野新聞社社長の岸本卓也です。（企画・制作 下野新聞社営業局）

下野新聞創刊  
140周年企画特集

那須どうぶつ王国社長 **佐藤 哲也氏**

栃木県立博物館自然課長 **林 光武氏**

現状と課題は

**林** 栃木県は県土面積の半分以上が森林です。首都近郊としては貴重な美しい自然が残された県です。一方、2017年の栃木県版レッドリスト改定では、県内野生動植物の絶滅危惧種は前回から75種増え、初めて1千種を超えました。県立博物館の林課長は「レッドデータブックとちぎ2018」の編さんと企画展実施に関わりましたが、現在、県内の生き物の変化をどう考えていますか。

**林** レッドデータブックに掲載された絶滅危惧種が増えたのは大きく二つの理由があります。一つはコサギやミスズマシなど以前はいて当たり前だった身近な生き物が減っているため。二つ目は調査研究が進み、シモツケコウホネなど全国的にも希少な生き物が県内にいることが分かってきました。当たり前にいる生き物を次世代に引き継ぎ、人知れずひっそり生きてきた生き物を絶滅させないことが私たちの責務と考えます。

**林** 那須どうぶつ王国は野生動物保護に積極的です。動物園として野生動物保全を始めた

栃木の自然を守るために



那須どうぶつ王国社長 佐藤哲也氏 県立博物館自然課長 林光武氏

きっかけは何ですか。  
**林** 希少種の繁殖を積極的に取り組むことが動物園の使命です。現在は（公社）日本動物園水族館協会の生物多様性委員会の委員長を務めており、「希少種を未来に残すことは動物園の責務」と考えています。

動物園の役割

**林** 野生動物を守る上で、動物園はどんな役割を担っていると考えますか。  
**林** ヤマネコやライチョウの保護繁殖、飲食施設の使用捨てプラスチック製品廃止などを行っています。国の特別天然記念物で絶滅危惧種のライチョウは、3月16日から那須どうぶつ王国を含む5施設で初公開されることになりました。他の4施設は大町山岳博物館（長野県）、上野動物園（東京）、富山市ファミリーパーク（富山）、いしかわ動物園（石川）です。また絶滅危惧種ツシヤママネコの候補種にもなっています。プラ製品不使用に関しても「脱プラスチック宣言」をすることは我々の責務だと思っています。

栃木の野生動植物の現状について語り合う佐藤社長（中央）、林課長（右）



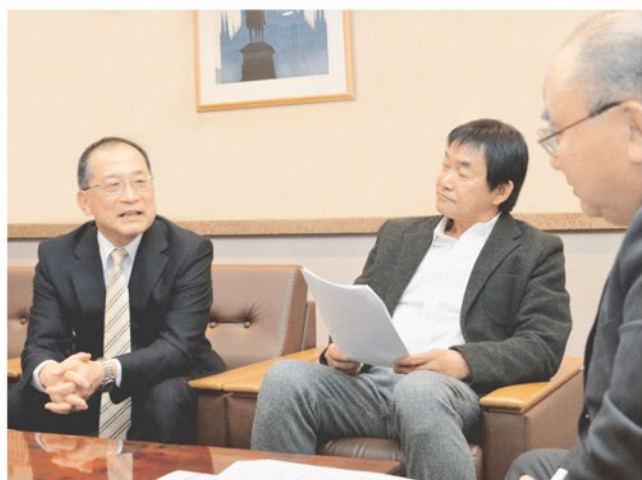
**林** 林課長は東京都のご出身です。外からご覧になって、また、日頃研究をされている上で、栃木県の自然環境をどう感じていますか。  
**林** 大学院生の頃、研究対象のイモリを採集するため関西を拠点にオートバイで日本各

野生動植物 多様性の宝庫

地の水田や湿地を回りました。その経験から栃木県はタガメやタイコウチなど水辺の生き物が暮らす水田が人里近くに残っているのが特徴だと思います。平野部の雑木林も他地域に比べまとまって残っています。「何もなくて残っている人もいますが、生き物が暮らす田んぼや雑木林があることは、誇るべきことだと思います。」

環境に関心を

**林** 私が子どもの頃、たくさんいた赤とんぼが今ではめっきり少なくなり、とても寂しいですね。どうぶつ王国でも10年くらい前には園内でアキアカネの大群が見られましたが、最近ほとんど見かけなくなりました。それでも王国では、野鳥が数多く観察できるので、毎日のバードウォッチングは欠かせません。先日、渡良瀬遊水地で越冬中の絶滅危惧種の



「生き物を絶滅させないのが私たちの義務」などと意見を交わす佐藤社長（右）と林課長

チュウヒを間近で観察出来ました。三羽同時に飛ぶ姿に感動しました。まさに栃木県は生物多様性の宝庫です。希少種も多く存在しています。  
**林** 栃木県の環境を守り続けるために私たちができることは何だと思われませんか。  
**林** 絶滅の危機にある生き物は、その生き物だけで生きているわけではなく、さまざまな生き物が暮らす環境があるからこそ、他の多くの生き物とともに生き残っています。企画展で紹介しましたが、貴重な生き物が暮らす環境を守る活動が県内各地で行われています。関心のある人はそうした活動に参加していただきたいと思っています。

**林** 那須どうぶつ王国では二ホンライチョウの普及啓発を目的にした一般公開が3月16日から始まります。二ホンライチョウが今どういう状況でどう保護されているのかを知ってほしいですね。  
**林** 那須どうぶつ王国ではこの春に新しい施設がオープンされるようですね。  
**林** 那須どうぶつ王国では、全天候型の新たな回廊（屋根付き歩行路）を抜け、頭上や地上水中の動物を見られる「アジアの森」が4月20日にオープンします。常緑の広葉樹を植栽するほか、高さ約33mの滝、擬木や擬岩を設置し、生息地の自然に近い環境を再現します。

**林** 本日はありがとうございました。



下野新聞社社長 岸本卓也